西合志南小学校だより
西南小の風
【校訓】明るく　かしこく　たくましく
学校教育目標：主体性と協働性を育み、夢の実現に挑戦する児童の育成
令和７年　９月１６日
第　７号
文責　西村　英一

初めが重要です

９月２日、１年生がタブレット PC の取り扱い方や操作方法を学びました。何事も初めが重要です。ICT 支援員（パソコンなどの操作に詳しい方）をお招きし、電源の入れ方、パスワードの入力の仕方、キーボードからディスプレイを外す方法、写真の撮り方などを学びました。子供たちはみんな集中して話を聞き、タブレット PC を慎重に扱っていました。

ところで、タブレット PC やスマホなどの情報機器はとても便利な道具です。しかし、様々なトラブルの原因となることが多々あります。時には子供たちが犯罪に巻き込まれることもあります。SNS 上の動画には犯罪行為がアップされており、子供たちが好奇心から真似をしてしまう例もあります。

ご家庭で、情報機器を子供さんに操作させる前には、年齢制限のアプリのインストールや防犯対策、使用時間の約束などを子供さんと一緒に話し合って決めてください。

中学生が職場体験に

９月９日から３日間、西合志南中学校の２年生６名が職場体験のために本校に来ました。中学生の皆さんはとても礼儀正しく感心しました。また、真剣な表情で子供たちの学習プリントをマル付けする姿、笑顔一杯で昼休みに子供たちと遊ぶ姿等々、積極的に職場体験に取り組む姿をたくさん見ることができました。

中学生の感想には、「先生が子供たちにどんな思いを抱いて教えているかわかりました。」「先生としての仕事の楽しさや厳しさを知りました。」「時間の大切さを学びました。」「子供たちと話すコミュニケーション能力が成長しました。」「時間･コミュニケーション力・メリハリの大切さを感じたので、中学校でもがんばります。」「子供たちと話したり、勉強したりしたことが心に残りました。また、相談することの大切さも学びました。」といった内容が書かれていました。

将来、中学生の皆さんの中から本校に職員として勤める方が出てきてくれるとうれしいです。

「非認知能力」を高める関わり方

根気強く課題に取り組む子供たち
レジリエンスが高まっています！

「非認知能力」をご存じでしょうか。**「やる気・好奇心（内発的動機）」「自信（自己肯定感）」「セルフコントロール力（自制心）」「創造力（発想力）」「コミュニケーション力（共感力）」「レジリエンス（困難を乗り越える力）」**の６つを指します。この「非認知能力」を高める関わり方の１つに「ほめる」があり、「ほめる」には３つのポイントがあるそうです。下に紹介します。

①「『努力」をほめる」→新しいこと、難しいことにチャレンジするレジリエンスが高まるそうです。

「努力した証拠だね。」「いつも頑張ってるね。」等のほめ言葉で「困難を乗り越える力」が育つそうです。　ただし、学年が上がるにつれて、安易にほめてばかりいるとほめ言葉の効果が下がるそうです。よって、「ここぞ！」というタイミングでほめるといいそうです。また、ほめる時に人と比較しない事も大切です。

②「ほめ言葉『おしい！』を使う」→次にチャレンジする意欲や自己肯定感が高まるそうです。

本人が目指していた結果が出なかった時のほめ言葉として「おしい！」が効果的だそうです。また、ほめられることが苦手な子供さんには、「○○（他の家族、近所の方、学校や習い事の先生・コーチ等）が、『すごい』と言っていたよ。」等と間接的にほめるのも効果的だそうです。

③「『ご褒美』はサプライズで」→セルフコントロール力が高まるそうです。

「結果に対するご褒美」が努力する目的になると、やる気・好奇心（内発的動機）が低下する傾向があるそうです。ただし、「努力に対するご褒美」はレジリエンスを育てるそうです。よって、ご褒美をサプライズで用意するととても効果的だそうです。ご褒美として、思い出に残るお出かけなどもいいそうです。

※　①②③が合わない子供さんもいるかと思います。子供さんに応じたほめ方をされてみてください。

参考文献：非認知能力を育てる１７の習慣（著者　西剛志氏　あさ出版）